

6

市販の点眼薬と処方された点眼薬について

目の疲れ、かゆみや充血に効能・効果をもつ一般点眼薬の薬効成分について

アレルギー性結膜炎の症状の中で、訴えの多い症状は「かゆみ」と「充血」です。薬局・薬店等で市販されている一般点眼薬の中でも、これらの症状を緩和する成分を含んだ商品があります。下記に一般点眼薬に含有される代表的な成分と薬効について紹介します。

I) 「かゆみ」に効果が期待される成分

マレイン酸クロルフェニラミン：抗ヒスタミン作用でかゆみを抑えます。

塩酸ジフェンヒドラミン：抗ヒスタミン作用でかゆみを抑えます。

II) 「充血」や「はれ」に効果が期待される成分

マレイン酸クロルフェニラミン：抗ヒスタミン作用で充血とはれを改善します。

塩酸エフェドリン：交感神経を刺激し、血管収縮により充血を改善します。

塩酸テトラヒドロゾリン：交感神経を刺激し、血管収縮により充血を改善します。

塩酸ナファゾリン：交感神経を刺激し、血管収縮により充血を改善します。

III) その他、よく含有されている成分

メチル硫酸ネオスチグミン：目の調節機能を改善します。

グリチルリチン酸二カリウム：抗炎症作用により、目の炎症を抑制します。

アズレンスルホン酸ナトリウム：抗炎症作用により、目の炎症を抑制します。

イブシロン - アミノカプロン酸：抗炎症作用により、目の炎症を抑制します。

ビタミンB₂ (フラビンアデニンジヌクレオチド)、ビタミンB₆ (ピリドキシン)

ビタミンB₁₂ (シアノコバラミン)、ビタミンE (α-トコフェロール) などのビ

タミン類：目に栄養を補給することにより新陳代謝を促進し、目の疲れを改善します。

医療用医薬品からのスイッチOTCについて

一般点眼薬の中には、すでに医療用医薬品として使用されている薬剤から一般医薬品（大衆薬）に転用された薬剤があります。このような薬剤をスイッチOTC（Over The Counter）と呼びます。

花粉症などのアレルギー性結膜炎に適応をもつ医療用点眼薬（処方箋薬）の内、クロモグリク酸ナトリウム製剤がスイッチOTCとなっています。このスイッチOTC・クロモグリク酸ナトリウム点眼薬は、処方薬としてすでに販売されているクロモグリク酸ナトリウム点眼薬に比べて濃度が低く、1/2濃度に設定されています。

スイッチOTCは、有効性と安全性が確認された成分を、より安全性を重視した濃度内での配合で販売されています。

市販の点眼薬と処方された点眼薬

市販の一般点眼薬は、医師の処方無くても自由に購入して使用することができます。これに対して、医療用点眼薬は原則として医師の処方が必要な点眼薬です。

目に異常を感じたら、まず、眼科医を受診しましょう。

市販の一般点眼薬では治療できない場合もあります。さらに、点眼薬で症状を隠してしまい、重篤な病状に進展する可能性もありますので、注意が必要です。

